

カービュー マーケットウォッチ (2011年10月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

3/5ナンバー乗用車合計が13カ月ぶりに前年を上回る

11年 9月順位	11年 8月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	33,197
2	(2)	→	フィット	ホンダ	27,980
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	10,860
4	(4)	→	セレナ	日産	10,371
5	(5)	→	カローラ	トヨタ	8,835
6	(6)	→	デミオ	マツダ	7,542
7	(8)	↑	パッソ	トヨタ	6,853
8	(12)	↑	フリード	ホンダ	6,497
9	(10)	↑	マーチ	日産	6,008
10	(13)	↑	ノート	日産	5,875
11	(9)	↓	ヴォクシー	トヨタ	5,598
12	(7)	↓	ラクティス	トヨタ	5,434
13	(16)	↑	ジューク	日産	4,827
14	(11)	↓	ノア	トヨタ	4,754
15	(14)	↓	ウィッシュ	トヨタ	4,545
16	(18)	↑	キューブ	日産	4,381
17	(15)	↓	シエンタ	トヨタ	4,219
18	(25)	↑	ステップワゴン	ホンダ	3,931
19	(20)	↑	ティーダ	日産	3,580
20	(17)	↓	ソリオ	スズキ	3,454

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■3/5 ナンバー乗用車合計が13カ月ぶりに前年を上回る！

軽乗用車を含めても前年同月比2.1%減まで回復

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した9月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は39万2050台で、前年同月比は97.9%（貨物車、バスを含む総新車販売台数は46万2192台／前年同月比97.9%）と13カ月連続のマイナスだが、下落幅は2.1%と12カ月ぶりにひとケタ台まで回復してきた。特に5ナンバーの小型乗用車が14万2052台で、前年同月比103.1%と前年を上回り、13万8327台（前年同月比98.4%）だった3ナンバー普通乗用車との合計（軽乗用車を除く乗用車計）が13カ月ぶりにプラスとなった。昨年9月は新車購入補助金制度が終了したことで、14カ月ぶりに前年を下回り、その後は反動減と大震災の影響で前年割れ状態が続いてきたが、ようやく底を打ち、長いトンネルの先に明るい光が見えたといえそうだ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（日産マーチ輸入分含む）は25万3814台で、前年同月比は99.1%。メーカーブランド合計では、すでに前年同期比でもプラスになっているレクサス、スズキに加え、ホンダとマツダが前年同月比101.6%、110.2%と前年超えとなり、トヨタも99.4%とほぼ前年並みの売れ行きになってきた。

月間ランキングでは「トヨタ プリウス（α含む）」が3万3197台で4カ月連続トップ。αが1万733台と依然として好調で、シリーズ全体で前年同月比21.8%のプラス。2位は2万7980台の「ホンダ フィット（シャトル含む）」で、ハイブリッド車1万4546台、ガソリン車1万3434台と、やはりハイブリッド車の好調な売れ行きが続いている。またスカイアクティブ技術の採用でベスト10入りを果たした「マツダ デミオ」も7542台で6位をキープするとともに、前年同月比23.6%増と勢いを取り戻した。このほか、4位「日産 セレナ」が46.0%増、「トヨタ ラクティス」も12位ながら245.5%増と伸張し、ベスト30圏内で13モデルが前年を上回った（1年以内にデビューしたモデル除く）。

軽自動車は乗用車部門が11万1671台で、前年同月比91.2%（貨物車を含めた全体は14万8402台／前年同月比90.9%）と12カ月連続のマイナスだが、9月に発売されたダイハツミライースは7000台の月間販売目標を上回る8870台と好スタートを切っている。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは2万6031台、前年同月比119.8%と2カ月連続のプラス（日本メーカー製含む輸入乗用車全体では3万2573台、前年同月比113.2%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはVW（フォルクスワーゲン）が6443台で9カ月連続トップで、前年同月比も141.4%とプラスに転じた。2位は4688台のメルセデス・ベンツだが、前年同月比は99.7%。3位は4165台のBMW（ミニを除く）で、4位アウディ2783台、5位ミニ1758台、6位ボルボ1581台まで前年を上回る好調な売れ行きとなっている。

■ココも気になる！その1

「第3のエコカー」投入で、ダイハツが軽市場を牽引

11年度上期（4～9月）で、「トヨタ プリウス」が11万3211台で3期連続のトップとなり、乗用車全体に占めるハイブリッド車(HV)販売比率は2.3ポイント増の18.4%に上昇した。電気自動車(EV)も「日産 リーフ」が今年1～9月累計で7256台、「三菱 i-MiEV」が1361台と確実に販売台数を伸ばしている。HVやEVに代表される低燃費車は、「エコカー」としてクルマ選びの一つの 카테고リーに成長したいえるだろう。そんなエコカー市場に電気の力を使わずに挑んでいるのがマツダとダイハツだ。

マツダはスカイアクティブ、ダイハツは e:S（イース）という新技術体系を標榜し、ガソリンエンジンや AT（CVT）の高効率化はもちろん、ボディの軽量化や空力性能の向上など、従来技術のトータルブラッシュアップで HV に並ぶ低燃費を実現した。6月のマイナーチェンジでスカイアクティブ技術の一部を初搭載した「マツダ デミオ」は7月1万464台／前年同月比33.5%増、8月は5868台／同34.4%減と低調だったが、9月は7542台／同23.6%増と売れ行きを伸ばした。そして9月20日に発売された「ダイハツ ミライース」は JC08 モード 30.0km/L の低燃費に加え、79.5万円からというリーズナブルプライスまで実現。先行予約分があったとはいえ、販売日数が11日と少なかったにもかかわらず、月間販売目標7000台を上回る8870台を売り上げた。

ミライースは受注ベースでも発売後約2週間で約2万5000台と絶好調で、早くも10月からの増産が決定されたほどだ。これまで「ミラ」クラスの軽乗用車は女性ユーザーが7割強だったが、ミライースでは男性比率が50%超となり、幅広い年齢層から支持されているのが特徴。もはや燃費は男女を問わず、クルマ選びの最重要項目なのだ。とはいえ、軽市場は12カ月連続で前年割れと厳しい状況。低燃費&低価格を切り札としたダイハツのがんばりはもちろんだが、ライバルメーカーの対応策にも注目したいところだ。

■ココも気になる！その2

9月末時点の輸入乗用車ランキングをチェック！

輸入車の販売データを集計している日本自動車輸入組合（JAIA）は通常、メーカーブランド別のデータしか公表しないが、3カ月ごとに車名別の速報データを20位まで発表する。そこで今回は海外メーカー製乗用車の今年1～9月累計によるベスト10をチェックすることにしよう。

1位は「VW ゴルフ」で2万426台（前年同期比93.3%／前年同期順位1位）、以下、2位「ミニ」1万576台（同121.4%／同3位）、3位「VW ポロ」1万452台（同92.2%／同2位）、4位「メルセデス・ベンツ Cクラス」8809台（同122.8%／同6位）、5位「BMW 3シリーズ」6947台（同81.6%／同5位）、6位「BMW 5シリーズ」6897台（同172.5%／

同 8 位)、7 位「メルセデス・ベンツ E クラス」6145 台 (同 71.5% / 同 4 位)、8 位「BMW X1 シリーズ」3991 台 (同 166.9% / 同 13 位)、9 位「アウディ A4 シリーズ」3990 台 (同 89.3% / 同 7 位)、10 位「ボルボ 60 シリーズ」3785 台 (今年発売モデル) となった。

1 位のゴルフは昨年まで 8 年連続年間トップを続けているだけに当然として、2 位以下の順位変動に注目だ。前年同期より 1 ランクアップのミニは今年 1 月発売の「ミニクロスオーバー」が貢献。ミニ初となる 4 ドアを採用し、FF に加え、4WD をラインナップしたことが人気の要因だ。3 位に後退したポロは供給不足の影響が大。昨年秋から在庫不足が続いていたが、ここへきて改善されただけに今年終盤の追い込みが見ものだ。また順位を上げた「メルセデス・ベンツ C クラス」と「BMW 5 シリーズ」はニューモデル投入の成果で、逆に「メルセデス E クラス」が順位を落としたのは昨年ニューモデルが好調だった反動だろう。

このほか注目なのが「BMW X1」。昨年の 4 月にデビューした X1 は FR が 363 万円、4WD でも 480 万円という戦略的な価格とオンロード志向のスタイリングで好調な売れ行き。3368 台で 11 位につけている「アウディ A1」とともに、今後要注目だ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
